



● 巻頭言

支えること、 支えられること

予約したバスが大雨のため運休となった。モンゴル出張の帰りである。よくあることのように、足がないのは困る。ウランバートルまで出かける車を探した。ちょうど村の郵便局長が、ワゴン車を出すことになったと聞いたが、時既に遅し。新学期にウランバートルの大学に入学した子どもたちを送る家族で、満席であった。仕方なく村の知り合いを訪ね歩くが、片道15時間かかるウランバートルまで車を出せる人は簡単に見つからなかった。ようやく途中の町ヘンティまでなら送ってもらえる人を見つけた。道の状態はかなり悪い。4時間遅れの出発で、大草原を突き抜けていくと、途中、ぬかるみに嵌って立ち往生していた郵便局長の車に追いついた。皆で泥だらけになりながら、車を脱出させようと悪戦苦闘している所だった。私たちも手を貸してなんとか脱出。しばらく私たちは一緒に走り、道の状態がよくなったところで、先を突っ走って別れを告げた。

やれやれ、人助けもできたし、何とかいけそうだと、安心してると、大雨で増水した川に道を阻まれた。浅瀬を探し遠ざかる牛の群れを対岸に見ながら、運転手は、川に入り、深さを確認していた。かなり深い。そうこうするうちに、郵便局長の車が追いついてきた。

モンゴルで脳性麻痺児の発達指導を行う代表



いつもは水無川、大雨で増水した川を渡って帰国の途に

ここ以外に道はないし、戻れば、今日中にヘンティには着けない。まず郵便局長の車が先に渡った。続いて、私たちの車もワイルドに水に浸りながら川を渡り切った。今度は助けられた、そんな印象が残った。

モンゴルの辺境の地では、否が応でも助け合わなくては行けない。助け合わなくてもやっていると突っ張れる社会もあるが、そうではない社会もある。そういう社会であればこそ教えられることもある。いつでも、人を助けるだけで終わることはないだろう。具体的な助けもあれば、勇気をいただく助けもある。互いに支え合う支援を志としたい。(HFI代表福井誠)

※モンゴルでのリハビリテーション活動の報告は p.3 をご覧ください。

CONTENTS

- ネパール・プロジェクト
現地訪問レポート …p.2
- モンゴル・プロジェクト
CBR 活動の可能性 …p.3
- セブ・プロジェクト
活動報告 …p.4
- ピース・ファンド
奨学生が絵画で受賞 …p.6
- 総会報告 …p.7
- なるほどコラム
こんなに違う！日本とフィリピンの
教育事情「えっ、また留年!？」…p.8